第 133 号
2014/03/29 発行

小網代の森と干潟を守る会

小網代 森と干潟つうしん

モリちゃんとガタくん干潟デビュー

森も海も干潟も 奇跡の集水域生態系を未来の子どもたちへ
小網代の森と干潟を守る会
〒238-0111 神奈川県三浦市初声町下宮田 261-5
代表　高橋 伸和　　E-mail: info@koajiro-higata.com
TEL.046-889-0067（仲澤）
URL: http://www.koairo-higata.com
年会費：一般会員￥1000　賛助会員￥5000（入会金不要 7月～6月）
郵便振替： 00260-4-21569　小網代の森と干潟を守る会

小網代詩人

今日はお休み

中井 由実

金曜日のうちから
その雪は降り始め　降り続き
降り止まず
関東一円を埋め尽くした

明けて観察会の土曜日
小網代は雪山になった気分で
周囲の道を閉ざした

「今日はお休み」
干潟からの伝言をうけとって
急ごしらえの看板を手にした伸さんが
三崎口駅の改札前に立った

雪一面の小網代湾奥に
最初の足跡をつけたいと夢みる
お転婆さんに知らせるために

しんと

中井 由実

冷たい低気圧が
しんしんと降らせた雪
しんしん　しんしんと
森を包み干潟を覆い道を隠して
音さえも吸い込んで
小網代を静まりかえった白いかたまりにした
動き出そうとするものたちを
押しとどめる大きな手のひら
まだ　まだだからね
じっと眠っていなさい　と

2014 年 2 月 15 日（土）　第 117 回自然観察&クリーンは大雪のため中止になりました。

干潟の雑学 （11）

3つの眼を持ち、ヒッチハイキングするフトヘナタリ

小網代湾奥部アシ原にひっそりと暮らすフトヘナタリの話

フトヘナタリはヘナタリやカワアイと共に東京湾から九州や西日本の瀬戸内海の内湾の河口域葦原や塩性湿地において水陸両用のライフスタイルで暮らす巻貝です。

ヘナタリ類は以前は関東地方のどこのアシハラでも普通に見られたようで、徒然草の第34段甲香（かひこう）には武蔵国金沢の浦（横浜市金沢区）でたくさん見られる貝で、この地方では“へなだり”と呼んでいると書かれています。

ヘナタリは辺奈太利や甲香と、フトヘナタリは太辺奈太利や太甲香と、カワアイは川合と書きます。

江戸時代の貝類書ではヘナタリ、フトヘナタリ、カワアイの名前がさまざまに用いられていたようです。この中で面白いのは江戸時代文化文政の頃、伊勢津藩の藩医であった須山三益の貝の標本で用いられている“ヨシノボリ”です。フトヘナタリをヨシノボリと呼ぶのはフトヘナタリが葦の茎に登る暮らし方をよく観察して名づけたのだと思われます。

貝の名前にはその地方の漁村だけでしか使われていない名前がいろいろあります。

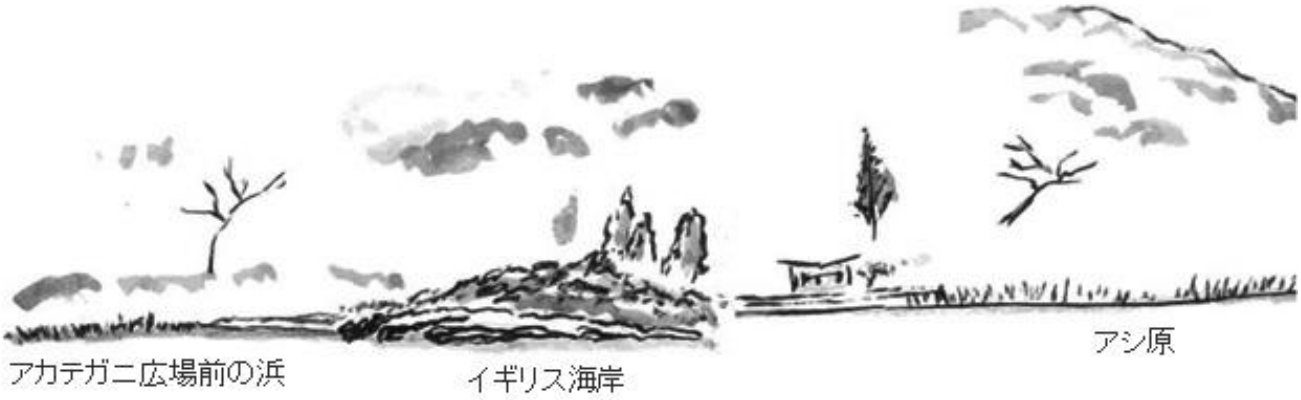
また、フトヘナタリ科やウミニナ科の貝類はマングローブの泥干潟などでたくさん見られ、干潟の上を這い回るので英語ではクリーパースネイル（creeper snail）と呼ばれたり、マッドクリーパースネイル（mud creeper snail）、ブラントクリーパースネイル(blunt creeper snail) と呼ばれたり、その形からホーンスネイル（horn snail）とも呼ばれるようです。

最近ではちょっと変わった名前で呼ばれる種類もあるようです。それはヒッチハイキングスネイル（hitchhiking snail）やフライングシェル（flying shell）です。

これは南北アメリカ大陸がつながるパナマ地峡の両側に暮らすフトヘナタリの仲間が渡り鳥に乗っておよそ75万年前に太平洋側から大西洋側にそしておよそ7万2千年前に大西洋側から太平洋側に少なくとも二回移動したことが明らかになったからです。

このように以前はどこにでも見られたヘナタリ類（ヘナタリ、フトヘナタリ、カワアイなど）ですが現在では関東地方ではほとんど見られなくなり、九州、西日本でも急速に個体数が減少しています。

フトヘナタリの暮らし方はとてもユニークです。産卵期は7月から8月頃で、泥に2センチくらいの穴を掘ってその中に卵を産みます。そしてこの仲間の多くの種では孵化後短時間で稚貝に変態して親の貝の近くで暮らし始めます。



フトヘナタリの眼の特徴はその第三の眼です。フトヘナタリ類は外套膜の縁に1個の外套眼を持っています。この眼を使って殻口の縁から覗いて周囲の様子を見ているようです。

ホーブリック先生の研究によると、アメリカ合衆国のジョージア、フロリダの海岸とキューバの海岸の河口域（estuarine）にある塩性湿地（salt marsh）とマングローブに暮らすアメリカのフトヘナタリ（Cerithidea scalariformis (Say,1825)）は左側の外套膜の縁に三番目の眼を持っています。この眼は中心部が黒く、その周りはオレンジ色の色素で囲まれています。卵形のレンズや角膜などの組織も確認されています。アメリカのフトヘナタリの産卵期間は秋で、9月下旬から11月にゼリーのひも状の卵塊をデトリタス上に産み落とします。卵塊はおよそ350個の直径約0．28ミリの卵を含んでいます。卵は日本のフトヘナタリと同じように直接発生で、およそ3週間後に孵化します。寿命は1年から2年と思われます。しかし、アメリカのフトヘナタリは成体になると殻長の成長はなく、その上に貝殻は侵食されるので実際の年齢の評価は非常に困難です。ロサンゼルス、カリフォルニアあたりに暮らすカリフォルニアのフトヘナタリ（C.californica）においての研究では寿命は7年となっています。また熱帯の種では3年から最大9年の寿命とする研究もあります。セリシデア属（フトヘナタリなど）で外套膜の眼の存在を最初に記載したのはペルスナー（Pelseneer）（1895年）です。おそらくすべてのセリシデア属の種は外套膜に眼を持っています。そしてこの眼がこの属の一般的な特徴であるように思われます。しかし、この外套膜の眼の機能的な役割は明らかになっていません。陸上での生活において周囲の環境を観察し、捕食者などを避けるために有用なのかは不明です。

小網代の干潟に暮らすフトヘナタリも黒い瞳の周りがオレンジ色の色素に囲まれていてとても愛らしい第三の眼を持っています。小網代の湾奥部のアシハラでほんの僅かひっそりと暮らし、小網代湾の最奥部から小網代湾の移り変わりをずっと見てきたフトヘナタリ、暮らしにくくなったアシハラからその第三の眼で何を見ているのでしょう。

小倉　雅實

参考資料：　貝類学雑誌18(3)1955
貝類雑誌12(1－2)1942
徒然草
三浦収先生の研究
ホーブリック先生の研究

随想　小網代てんてん ⑪

岩堂山（いわどうやま）と行基伝説（ぎょうきでんせつ）

須田漢一

三浦市で一番高い岩堂山に登ろう、とバスを松輪で降りる。

野菜畑の向こうに、三角形の山が威張っている。高さは82メートル。他にこれといった山が無いのだから、一人舞台なのだ。

登り口に案内板がある。

「・・・大昔、毘沙門（びしゃもん）の白浜海岸に一体の仏像が流れつき、村人はこの仏像をお祀りしておりましたが、行基菩薩がこの地をお通りになり、尊い毘沙門天であることをお教えになりました。そして菩薩はこの山にこもり、さらに毘沙門天像をお刻みになり、ともに祀るようにお告げになり去られた」

岩堂山の昔は、籠（こも）れるほどの深い山だったのか。あけっぴろげな今の姿からは想像できないな、と思っているうちにてっぺんに着いた。

小網代の森はどこか、と目をこらしたが森は台地の下に畳まれて、見えない。近くに目を移す。ゆるく傾斜したキャベツとダイコンの畑、その間に溺（おぼ）れ谷、台地、溺れ谷、畑、雑木林、とパッチ状の風景が心地よい。

時代を顧みると、かつては開けていなかったこの地に、いつの頃か、人々がヤブを払い、木の根を掘り、出っ張りを削り、湿地は水を抜き、土や肥料を鋤（す）き込み、作物の収穫できるところに変えていった。

奈良時代の高僧・行基が訪れたころは、縄文海進のなごりの残る、ササやイバラの密生した、水たまりの散らばる所だった、と想像する。そうした事ごとを思うと、行基が原木をさがして仏像と彫ったいわれも、あながち荒唐無稽（こうとうむけい）な話ではなさそうだ。

別に、こんなことも考えた。

行基は、築堤、寺院の建立、道路造成、荒地の開拓、大仏造立、と資金はもとより人あつめにも多大な事績を残した。その超人的な仕事振りを、知恵ある者が利用し、誰も見たことのない行基が、あたかもこの地へ来たかのように毘沙門天像の縁起を創りあげ、人びとの信仰心を高揚させた・・・。

と、思いながらも、三浦半島には行基の開創したという寺や、行基作という観音像の縁起を伝える古刹が多い。逗子市・神武時の創建、法勝寺や岩殿寺の観音像、横須賀市衣笠大善寺の不動象・観音崎洞窟内の観音像、など、単なる伝説とは思えない。

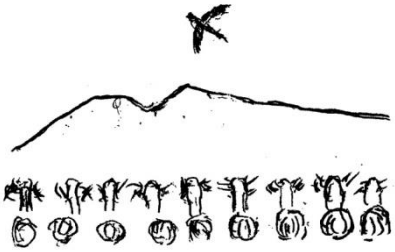
最先端の通信機器を使って、瞬時に情報の得られる現代とは異なり、かつては旅から旅へと渡り歩く人から聞いた話が、唯一の情報源だった。そうした伝承・伝説に類するものが、人から人へと伝わるうちに、変化、脚色され、あたかも真実あったこととして残されたのではないか。

けれども、そうした事柄を詮索するよりも、それが、真実あったものとして讃嘆している方が、人にとっては幸せなのかもしれない。

岩堂山は、そんな思いを馳せる、畑の中の高みだった。

トビが、気流をとらえている。

（2010　10／21　2011　3／9　歩く）



カニグッズ（10）

◆海外からの　カニ便り

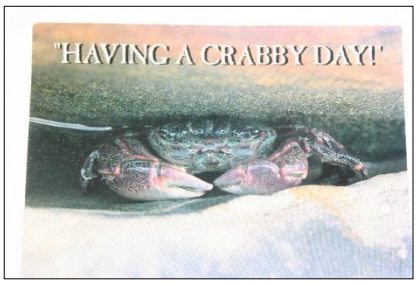
かにをモチーフにした絵葉書や絵はかにグッズの中にたくさんあります。夏のお便りの絵柄には最適なのでしょう。

今回はそれ以外のカニモチーフの絵葉書などを紹介します。

会のスタッフの中でも一番たくさん、海外に足跡を残しておいでの祖父川さんがカンボジアを旅した折にお土産に下さった木版画です。縦にA4を3枚並べた大きさです。絵の真ん中下に彫られたかにの絵が分かりますか？ここでもカニは大事にされているのが伝わりました。

次はフランシスコ・ザビエルの奇跡の話、彼がアンボイナ島からセラム島へ渡るとき嵐にあって、つい十字架を海中に落とした。ところがセラム島に着くと蟹がその十字架を捧げて待っていたという。その話を受けて作成されたのではないかと推察されるポルトガルにある国立マシャード・デ・カストロ博物館にある「蟹台座十字架型聖遺物入れ」の写真です。

これは筆者の若い頃、自然観察会で声をかけてくれた元歯医者さんが小網代の森の保全活動が始まった頃、かにの写真だとニコニコしながら下さったものです。

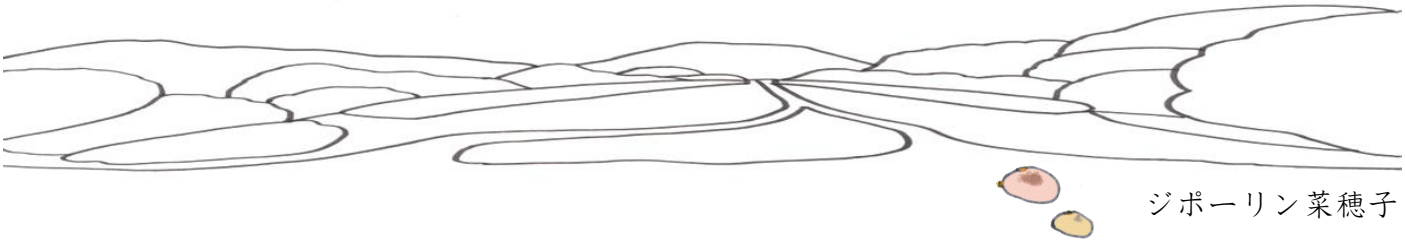


最後は筆者が某英会話教室に通っていた頃、ホワッツ　ニューと順番に何か新しいことを聞かれます。当時、小網代のことばかり拙い単語を並べていたにもかかわらず、一緒にいた方々がみんな小網代の森の観察会に参加してくれた方ばかりだったので、　講師の先生に何とか伝わったと見えて　ある日、渡してくれた写真葉書です。Having　a　crabby　day!　この言葉と蟹の様子に当時、忙しかったスタッフたちは　どんなに　癒されたことか？

戴きものに感謝する宮本　美織

干潟のゆりかごの小さな住人　その１４

コウイカはいかしてるし。いかめしいし。



ジポーリン菜穂子

三浦の春は早いです。いち早く春の訪れを告げてくれた河津桜は、早くもほかの桜にバトンタッチです。私たちも昔の人も、本当に桜が好き。桜でないものにも、サクラの名前をつけています。桜貝。色も形も桜の花びらにそっくりです。*

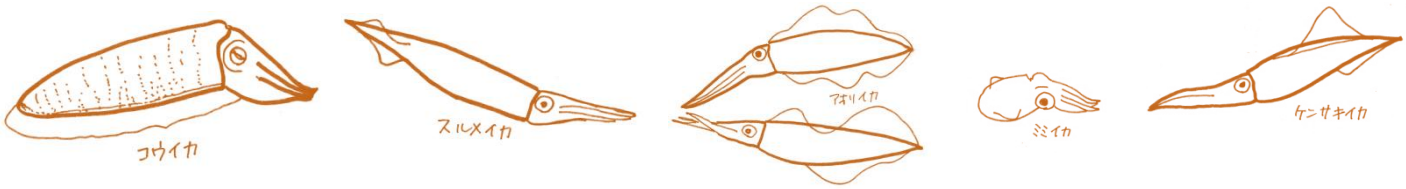
浜の砂　まだ冷たけれ　桜貝　　中村汀女

春は名のみの〜。といったところでしょうか。それから桜海老。生体が桜色だからだそうです。ひと頃、オキアミが桜海老を偽装しているとかで、問題になったりしましたね。オキアミも、人類にとっての貴重なタンパク源だ、ということに落ち着いたのではなかったでしたっけ。

またなんといっても桜草。見るからに、草の桜です。江戸時代には、栽培したり、新種を開発したり、ということが、お侍さまの間で、たいへん流行しました。寄り合っては、見せ合って、洒落も言い合い、漢詩など作ったりして、楽しいひと時を過ごしたのです。平和な時代ならではですね。桜草は春に咲きますが、秋に咲くものにも桜の名。桜蓼。白花桜蓼が咲きそろっていると、海に波がたっているかのようですよね。桜結び、という言葉もあります。着物の帯ひもや、半幅帯の結び方です。桜みたいにすてきな結び方ですね。

桜のようだから、ということではなく、桜の咲く頃に・・・。ということで、名前がついているものもたくさんあります。桜鯛。桜の花の盛りの頃、ちょうど産卵期で脂がのっている鯛、ということだそうですが。桜鰍（ウグイ）。春になると雌雄ともに、鮮やかな朱色の三本の条線が現れます。婚姻色です。桜の頃に、桜色に染まる、というのです。それに、桜魚、桜鱒。ワカサギやコアユは桜の咲く頃にとれる魚だから、桜魚。桜鱒は、幻の魚とも言われたりしますが、どうやらヤマメやアマゴのことらしいです。そのまま、川に留まるのが、ヤマメとアマゴ。大海原に繰り出していくのが、サクラマス。何にしろ、桜の咲く頃に穫れるから、ということです。富山のマス寿司も本来はサクラマスだそう。三崎口駅前の京急ストアのおにぎりコーナーでも売っていますね。人気商品らしく、すぐ売り切れになりますよね。

それから、桜烏賊。あるいは、花烏賊。イカは種類によって、旬がちがうのです。スルメイカは五月から七月くらい。ケンサキイカは七月中旬から九月。アオリイカですと、九月中旬から十月だそうな。いずれも、ツツイカ目のイカです。そして、桜の頃が旬であるのが、桜烏賊です。高浜虚子の『新歳時記』によると、この桜烏賊の学名は、甲烏賊。小網代の干潟でお馴染みのコウイカです。コウイカは、体の中に白い石灰質の「甲」を持っています。それがコウイカのコウ。



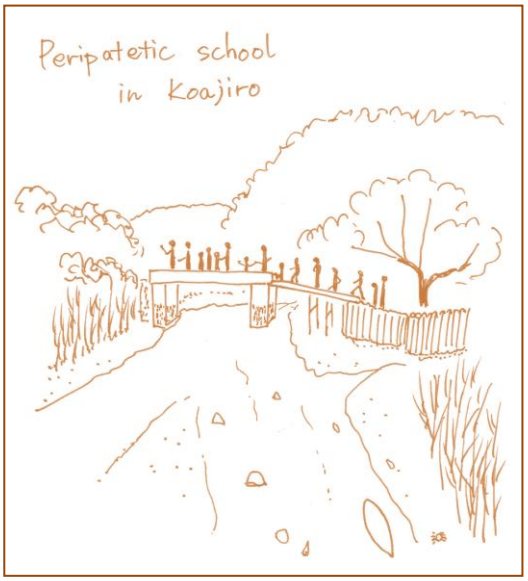
これは、手の平サイズか、それより少し大きいくらいの、船のような形をしたプラスチックのようなもの。砂浜や、干潟で、見つけることができますね。イカもタコも、貝と同じ軟体動物の仲間ですが、この「甲」が貝殻にあたるわけです。

コウイカのイカの語源は諸説あります。形が厳(イカ)めしいから。江戸時代の『和訓栞(わくんのしおり)』には、「その形いかめしく骨も異様なれば名付くるべし」とあります。たしかに海の中を泳いでいる様子は、なんだか神々しいです。それから、貝の反対。貝とちがって、貝殻にあたるものが体内にあるから、カイをひっくりかえした、というのです。「イ」たす「カ」という説もあります。「イ」は発語、「さてと」とか「さあ」のような。「カ」は体内の甲を指すという説。栄川省蔵による『新釈魚名考』では、「カ」は食（ケ）からきた、と説明されています。「さあ食べよう」という意味になるのでしょうか。何しろタウリンたっぷりですから。

烏賊売りの　声まぎらはし　杜宇(ほととぎす)　　松尾芭蕉

江戸時代には、ホトトギスの鳴き声のような声で、イカを売りにきたのですね。では、烏賊という漢字は。中国でも同じ漢字ですが、ウーツァイと発音。ここからイカという音にするのは少し苦しそうです。中国語では、墨魚(モーユー)という言葉も使われています。墨を吐くのはわかりますが、カラスの賊って何でしょう。イカは死んだふりをして、海を漂い、やってきたカラスを逆に襲った。カラスにとっての賊だから、という言い伝えが『南越志』に書かれていたそうな。この『南越志』は六世紀頃のものと考えられていますが、現存していません、残念。この言い伝えから、「イカサマ」という言葉になったとも言われますが、これはどうでしょうか。イカサマは「いかが様なものか」が縮まったものでしょう。昔の若者言葉の「イカす」は、どこからきたのでしょうね。

甲烏賊は英語では、cuttle fish。そのほかのイカは squidです。甲烏賊は、アリストテレスにも登場いたします。アリストテレスといったら、哲学者のイメージでしょうか。しかし、古代ギリシャは、文系だ理系だ、なんていうケチくさい領域意識はなかったようで。アリストテレスには、『動物発生論』ですとか『動物誌』などという著作があります。いわゆる自然学ですね。そこで、コウイカに使われているギリシャ語はsepia。聞いたことがあるでしょう？そう、そのセピアです。「セピア色に染まった写真でほほえむ君と僕」のセピアです。コウイカの墨をインクにしたのでしょうね。そして、ペンには葦が使われていたそうです。干潟の文房具ですね。描いた瞬間に赤茶色になるそうです。そこで、ダ・ビンチやレンプラント、デューラーなどは、イカ墨でデッサンしていたと言われます。しかし、よくよく調べてみると、あったとしても一点かそのくらいなそう。たいていは、鉱物からできたインクが使われていたようです。干潟の文房具で描かれたと考えると、たしかにロマンティクではあります。



江戸時代の随筆『甲子夜話(かっしやわ)』には、借金の証文をイカ墨で書くと、インクが一年たたないうちに消える、とあります。だから「イカサマ」だそうな。しかしこれは、調合を間違えているからだそうです。イカ墨は、なかなかスグレもので、日の光にも強く、色あせてしまうことはないそうですから。試してみませんか。ただ、イカ墨は粒子が大きいので、万年筆に差し込むインクとして使うと詰まってし

まうそう。葦原の葦や、落ちている羽軸を使うのがよいですね。

タコ墨利用は、あまり聞いたことがありませんよね。成分がちがうのでしょうね。タコの墨は、煙幕作戦。イカは、分身の術です。イカの墨の方が粘り気があり、墨が、まるで、分身のように見えるそうなのです。そこで、敵の目を欺いて逃げるそうです。本来の用途のほかにも、歌詞に文房具に、大活躍のイカ墨。まだあります。「セピア・パスタ」なんちゃって。イカ墨パスタです。しゃれたお店では「スパゲッティ・ネロ（黒いスパゲティ）」という表現が使われたり。これは、イタリア語の「スパゲティ・アル・ネロ・ディ・セピアSpaghetti al Nero di Seppia」から。言うまでもなく、塩辛にも使われますね。

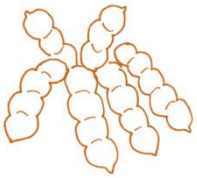
墨袋のほかにも、イカのお口のまわりも、それは、珍味美味なそうです。通のあいだで、トンビと呼ばれています。カラストンビとも。カラスとトンビの嘴に似ているからだそうです。嘴の部分は外してしまうことが多いようですが、ここもカリカリになるまで焼くと、おいしいとか。また、体の先のペラペラのヒレはエンペラと呼ばれます。内蔵と一緒に煮ると、とても美味だそう。そのままでも、美味しいですよね。淵にあるペラペラだからかな、と思いましたが、ナポレオン皇帝の帽子に形が似ているから、という理由だそうな。

イカは、食べようとすると、基本的に捨てるところがほとんどありませんね。すごい。ありがたや。その釣り方も、一網打尽にいらないものまで、収穫してしまう投網方式でなく、釣り糸をたらします。ライトに集まってくるので、夜釣りが有名ですね。こうした方が、身が必要以上に傷まず、おいしいのだそうな。根こそぎ方式とちがい、必要なものだけを必要な分だけの方式は、アメリカの自然史博物館などでは、サステイナブル(sustainable＝持続可能)型に分類され、推奨されています。日本で、昔からやってきたことって、たいていが、サステイナブルです。環境に関して、日本は昔から、すばらしいことをやってきていて、でも、その中にいるから、私たちはその良さに気づいていないことが多いです。そのことを、ガラパゴス症候群などと、冗談気味に呼んだりしますね。

さて、夜、イカが釣り船の光に集まってくるのは、イカの視力がいいから。カメラ眼といわれる構造だそうです。私たちの目の構造に似ていますが、イカの方が、性能がいいくらいだそうです。そのほか、イカはいろいろすごい。体の色や模様を替えることができます。海のカメレオン。ハーバード大学で、衣料や、化粧に応用できるのでは、と研究が進んでいます。おもしろそう。まわりの環境に同化してしまうことから、兵士の着る迷彩服にも。これはどうなんでしょうかねえ。兵士の命が救えるのですから、良いことかもしれません。

そして、イカは、タコもそうですが、海の生き物の中では一番のインテリ。Tの字の迷路でも、出口を探すことができるそう。イカの認知能力の調査も進められています。「海の霊長類」とも呼ばれていますね。これは、フランスの海洋学者、ジャック・イブ＝クストーが、柔らかい賢者と呼んだのが始まりのようです。クストーはカリプソ号に乗り、撮影されたものは、日本でも「クストーの海底世界」として、日本テレビの『驚異の世界』(1972-1982)で紹介されました。クストーは、アクアラングの発明者でもあります。スクーバダイビングの機材です。

そんな海の賢者様を、私たちは、ありがたく、おいしくいただいているのですね。三浦の船凍イカは、かながわ名産百選のひとつです。それから、イカの天日干し。港の海岸線を歩いておりますと、魚の開きに交じって、イカもその姿そのままに干されていますね。こういうのが和食の



文化でしょう。つまり、食べるまでにいたる作業が風景になっているのです。風景も食のうちなのです。

和食ついでに、桜の名前のついた食べ物を。桜海苔。海藻サラダの中にもはいっているあの、赤紫のきれいな海藻のことです。桜煮。タコの柔らか煮です。桜色になるからだそうです。小豆と「抱き合わせ」るとさらによいそうです。桜鍋。桜肉のお鍋。桜肉は馬肉のことです。どうして馬が桜なのか。坂本龍馬の逸話など、諸説あります。馬は桜で、猪は牡丹です。桜飯。土地によって異なるようです。茶飯のことだったり。桜の塩漬けをいれたものだったり。梅干しと昆布だったり。どちらにしてもおいしそう。桜味噌。これも、地域によって。甘味噌のことだったり。もともとは、白味噌主流の京都で、赤出しのことを、桜味噌と呼んだことからだそうな。桜漬け。大根の梅酢漬けのこと。梅（梅干し）を使っているのに、梅漬けでなく、やっぱり、ピンクといえば、桜漬けなのですね。桜粥。小豆煮のことです。江戸時代は、子供の大好物だったよう。江戸の儒者であり文人の服部南郭の好物でもあります。天下国家を論じながらも、子供の好きな粥をすする。なんて俗なんだ。しかし、俗でありながら、なんと雅なこと。このギャップがたまらなくかっこいいのです。「あぢなこと」なのですって。

食の風景といい、食の名前といい、自然との距離の近さを感じますね。

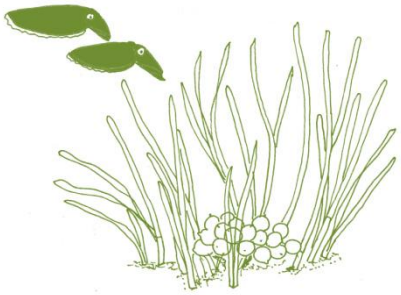
洗いたる　花烏賊墨を　すこし吐き　　高浜虚子

＊　桜の名前のついた貝については、『つうしん 126 号』2012 年 12 月刊の「小倉さんの干潟愛コーナー」をご覧ください。

参考にした本：
アリストテレス『動物誌』島崎三郎訳（1998 岩波文庫）
奥山喬司『イカはしゃべるし、空も飛ぶ一面白いイカ学入門』（2009 講談社ブルーバクックス）
Jacque-Yves Cousteau, Octopus and Squid: The Soft Intelligence (Undersea Discoveries of Jacque-Yves Cousteau) trans. by J.F. Bernard (1978 Doubleday).
Paul Karoff, “In Search of Nature’s Camouflage” in Harvard Gazette (January 28, 2014　Harvard U).

ディープ小倉さんの驚異の干潟世界

イカやタコの仲間の頭足類は絶滅した種が多くありますが、
現生種は全世界におよそ１０００種近くいます。
最近名前をよく耳にする、全長が２０メートルにもなるダイオウイカも
ツツイカ目ですが、
小網代でよく見られるコウイカやミミイカは
コレオイデアですがコウイカ目です。
最古の頭足類は５億年くらい前の古生代前期カンブリア紀から
知られています。
イカ墨の話がありましたが、イカ墨の化石は
１億５千万年くらい前の中生代ジュラ紀のコレオイデアから
見つかっています。こんなに昔から
頭足類の仲間は捕食者回避の方法として
イカ墨を使っていたのですね。



また小網代にアマモが増えて
コウイカやミミイカなどにたくさん会えると嬉しいです。

スタッフコラム

◆雪の小網代を歩く”　～冬鳥達との出会い～

脅威の南岸低気圧が発達し、2 月 14 日の夜から三浦半島でも先週に引き続き 2 回目の大雪に見舞われ、横須賀の我家の周辺でも20cm 程の降雪があり、これは 45 年ぶりの大雪という。

さて、“**國境の長いトンネルを抜けると雪国であった。**”かの有名な川端康成の小説の書き出しでありますが、自分は、そのトンネルの入り口側の群馬の奥利根で生まれ育ちました。雪国で生まれた自分にとって『ゆき』というのは不思議な存在で、幾つになっても理屈抜きの胸騒ぎ、子供心に帰り、どこであろうと　雪は雪！　真っ白の雪の中にいるといやなことは何もかも忘れさせてくれます。もう、こうなるとじっとしていられなく、2 月 16 日の朝、自主的に雪の三崎方面に足が向いたという訳です。

まずは、三崎口駅より黒崎方面から回ることにしました。左右のダイコン畑も雪で真っ白、右遠方には丹沢連峰の雪景色が清清しい。左を見れば天城連峰と伊豆大島も雪化粧していた。途中から道の除雪はなくザックザックと雪漕ぎで進む。畑では元気な冬鳥の**タヒバリ**達が餌をついばんでいた。

相模湾の向こうに見えた清楚で新雪がまぶしい世界遺産の富士山に向かって思わず合掌。三戸浜を通過し、毎回小網代のイベントの際、通過する富士見坂で一息。緑の野菜畑に直線の雪、日本一の富士山。この美しい景色は初めてかもしれない。

とその時、不思議にも後方の北川の谷から**ミサゴ**がさわさわと頭上を通過し海の方へ飛び立っていった。こんなところで、何をしていたんだろうか？

ところで、これから本日の本命の場所～小網代の森方面に向かう。

まずは、人っ子一人踏み跡のない新雪の中を歩き始めた。すばらしい富士山を右に眺めながら北尾根方面から入ろうとしたが、最初に立ちはだかったのは、〔笹のトンネル〕だ。そこが雪で潰されていた。通行は凸凹の上を越えるのは莫大な体力が要るのでほぼ不可能。引き返すわけにもいかず、林の中を迂回してやっとビオトープ広場につくかと思ったら、二つ目の潰された笹の壁にあい再び遠回り。

やっと干潟にたどり着いた。右前方の斜面では**アオサギ**が、目の前では珍しく**ハクセキレイ**と**セグロセキレイ**が戯れていた。頭上では10羽ほどの**トビ**が気持ちよさそうに真っ青な空に向かってクルクル輪を描いていた。

対岸の崖のカラスザンショウの大木が無様で目茶目茶状態に枝折れしていた。

干潟周辺のちょっと高い土手にあがって上流側を眺めていると、エノキの下で格好の良い**シロハラ**が夢中で何かを食べていた。この森では久々に見た冬鳥だ。

また、河口の石橋上流で、架け替えの橋の工事として基礎のコンクリート枠が出来ていた。かなり長いがどうやらデッキにジョイントか。

この辺りにしばらくいたら、冬鳥の**アオジ**、**ツグミ**のほか、**ホオジロ**、**ムクドリ**、**スズメ**、**ハシブトガラス**、**ヒヨドリ**達たちがキョロキョロしていたが雪で餌場が埋まり、中にはこのような大雪に遭遇したのは初め

ての小鳥もいたかもしれない。ジャヤナギに数羽の黄色い鳥が見えたのでよく確認してみたら**カワラヒワ**でした。

午後からは、この周辺を行ったり来たりしていましたが、まず目にとまったのが冬鳥の**カシラダカ**、何といっても冠羽と胸の茶の帯がかっこいい。

そんなことで、冬の森は全く眼が離せない。何気なく見ていたハゼの木の種子を**モズ**が食べていたのです。この鳥は肉食で冬わずかに木の実・種子等を食べることがあるがほんの例外とのことなので比較的、珍しい光景を見たことになるようです。

そして、最後にやっぱりとって置きのハイライト事が待っていました。というのは、そろそろ帰ろうかと思って上空を見ていたら、比較的低いところから尾羽を扇形に広げた**オオタカ**が将に自分を大歓迎してくれたかのタイミングで飛び立ってしばらく空中に円を描いて遠くに消えていきました。何回見ても鷹は俊敏で気持ちがよい。

最後に、ふと気が付くと雪上に親子のアライグマの足跡も見られました。

以上のように、小網代では主に冬鳥の観察（18種）となりましたが、ひとり静かに至福な時間を雪の小網代で過ごせ楽しかった一日でした。

（文・写真・画　鈴木清市）

いちご川だより

◆バナナナメクジは川の掃除屋さん

ジポーリン周樞

カリフオルニア大学バークレイ校のキャンパスにはいちご川が流れています。川の水は、浦の川のように澄んだきれいな水です。でも、少し前は、濁って汚い水だったそうです。バークレイは昔、野原でしたが、1906年のサンフランシスコ大地震でサンフランシスコの都市がめちゃくちゃになり、みんなサンフランシスコ湾を渡り、バークレイに移り住み始めました。それから、バークレイの都市化が進み、いちご川の汚染が進みました。そのことは、ずっと問題となり、1987年には、いちご川マネージメント・プランが成立しました。1980年代のいちご川は最悪の状態に陥り、川の水に化学物質や下水が混じり込み、健康に悪いから水に触らない、いちご川に近寄らないようにとされていました。今のいちご川しか知らないので、そんなだったとはびっくりです。今でもサンフランシスコ湾のあたりでは、まだ問題になっていますが、 キャンパスの周りはきれいになっています。しかし、汚染を最小限にくいとめるために、大学は今でもモニターし続けています。そして、ひとりでも多く、川の水が浄化するようなサステイナブル（sustainable）循環可能な状態にしようとしています。このように、サステイナブルの以前の状態に戻すことをレジリアンシー（resiliency）と呼びます。このために、活躍しているのが、バナナスラッグ（バナナなめくじ）です。バナナなめくじは、最大 25 ㎝にもなり、名前の通り、体が真黄色で、形もバナナのようなナメクジです。そんなバナナなめくじは川岸の老廃物を分解し、ナイトロジェンを発生させます。そのことにより、水が浄化されます。大学の人々は、「いちご川には、バナナなめくじがいるんですよ。」と自慢そうに話してくれます。

小網代の森と干潟を守る会の活動

2/1　　きらら賞授賞式（於新横浜）

2/8.9　　のたろんフェア 2014 フリーマーケット参加

2/15　　第 119 回自然観察&クリーン 大雪のため中止 駅前対応

2/21　　のたろんフェア反省会

3/29　　小網代 森と干潟つうしんＮｏ．133 印刷発送

3/29　　スタッフ会議（於 猿島）

ご寄付ありがとうございます

森の応援金　　斉藤勝様　菊地蔵乃介様

以上の方からご寄付をいただきました、ありがとうございました

のたろんフェア 2014 参加記

◆大雪！のたろんフェア2日間

2月８日と9日は横須賀市民活動サポートセンターのフェアでした。建物周辺では食物販売の店12、建物内では団体の展示発表52,小さなス--テージでの発表 25、1団体机一つの館内物品販売店が 25、館内にはスタンプラリーあり、飲み物販売コーナーあり、天井からは大きなノットアロンのマスコットが掲げられ、半年前から実行委員が立ち上がってポスターなどが作成され、年間で一番大きなイベントでした。いや、ちょっと違います。大きなイベントになるはずでした。

私たちの会も小網代の宣伝と活動費の獲得をあてにして、昨年に続き評判のよい県立平塚農高、初声分校から仕入れたパンジーの苗225といつもの会で扱う書籍・通信・トラスト申し込み用紙など、何日も前から用意し、7日の夜に搬入をすませていました。

実は7千人の来場者があった昨年とは大きく違っていました。そうさせた主は7日の夜半から降っていた雪です。電車は止まっていなかったので10時の開店を目標にバスの来ない雪道を駅まで歩き、会場いり、三浦からのスタッフ3人はすでに会場いり。東京からのスタッフも大きな洗剤の販売品を提供しようと参加。会場にはきっと開店の方々と結びつきの強い方々で大賑わいでした。でも、ふと、気がつくと同じ方が何回も回っています。新しくフリーで会場に来る方はあんまり多くはないようです。

昨年よりも2倍のパンジーを用意しましたので、一生懸命購入を呼びかけました。5つで400円。その上、ご購入のかたには皮の名前タグが貰えます。（Nさんが床に座って、皮細工をしています。）あんまり安いのとよい苗なので、立ち寄ってくれる方は多かったのですが、この雪で持って帰るのが・・・。会の通信の配布も100部用意して読んでいただけるようにお願いしました。

交通情報がはいり、2時頃にはもう、閉めても差し支えないと会場長が言ってまわってくれました。なので、早めに家に帰ったスタッフは既に家までの電車は止まり、3時間のタクシー待ち。とうとう、上りに乗って、横浜の娘さんの家にたどり着いたという。家のご主人には大変な心配をおかけしてしまいました。

最終プログラム、東日本大震災の時の中学校の校長先生の災害時の話をうかがっていて、5時の閉店までいたスタッフも、止まった所から自宅まで歩くと勇ましく帰りましたが、タクシー乗り場で娘さんにばったり。親子で雪の中、タクシー・歩きで三崎口駅の下にある家に11頃たどり着いたそうです。お母さんがさぞ喜んだことでしょう。

筆者は駅から30分の所を歩いたのだが、1時間近くかかったのです。人気のない山道を深くラッセルしながらの歩き。暗くなってくるし風はすごい。買ったばかりの傘はお猪口で戻らない。八甲田死の行軍もかくやと思いながら家に着きました。

2日目も大雪でバスは止まり、歩いて駅まで約40分の歩き。歩道橋の雪をかいてくれている方に感謝。今日の一番の心配は残った荷物の始末。車で搬出の予定が家の前の道路が大雪でとても車を出せない。

駐車場を借りようかと交渉に行ったが、駄目と断られ、一生懸命売るしかない。新たなスタッフ2人も参加して一生懸命声をかけます。でも、この日も決まった方しか来ない状況。周りのお店の方々で買ってくれる人がいて、大助かり。箱ごと買ってくれる団体があり、箱ごと配達。よかった！3パレット75株が残ったが、サポセンの方が持ち帰れない荷物を1個100円で預かってくれるということが分かって一安心。

翌日、荷物は取りに行って、大雪に振り回された2日間は3日もかかって収束。

およそ2万円の売り上げ以上に　使ったスタッフの交通費はいつもとおり、「なし」です。すみません。ちなみに入場者数は約3千人でした。これに懲りずに来年も・・・？？？

記　宮本美織

◆大雪のたろんフェア・・・帰宅困難者の記

京浜急行は久里浜で折り返し運転になっていてその先はポイント点検中で開通予定はわかりませんとの構内放送が繰り返されていたので仕方なく百貨店の入り口ドア内で寒さをしのぎながら立っていた。時々エスカレーターや階段を上り下りして体を動かしているところで娘とばったり会ったのでレストラン階で食事をして戻ってもまだ電車は不通でそのうちに百貨店も閉店で追い出され風にふかれて凍えながら待っているとイライラした乗客が駅員にいつ動くのかとつめよっている。しばらくすると天候が回復するまで復旧はありませんと放送があり外に出ると雪はやんでタクシー乗り場は長蛇の列。家をめざして歩き出したら野比海岸行バスが来たので飛び乗って終点まで来るとバスもすべって動かなくなった。降りた乗客は10人。目の前は海辺の吹きさらしでここから三崎口めざして轍の中を歩き出す。夜中のクロスカントリーで黙々と進む。吹く風は冷たいけど火照った体にはちょうどいい。ばらけた列の先頭集団でずいぶん歩いたころ前方からタクシーが来た。先頭の若者が止めていたけど断られたみたいでまた歩き出した。しばらくするとまたタクシーこんどは我々に手を振っているのでいそいで行くと相乗りしようと言ってくれ乗り込むと三浦海岸までなら行くがその先はむりとのこと。それでもほっとしてガタガタ滑りながら走る運転手さんに状況を聞くと坂は走れないので平らな所だけで稼いでいると言う。三浦海岸入り口の交差点で降ろされ引橋めざして再び坂道を歩き出したら道路が大変なことになっている。無人の乗用車バストラックが延々と雪に埋もれている。映画のワンシーンの中をなんとか無事家にたどり着いたら11時をまわっていた。

高橋伸和

◆写真コンテストで入賞しました

賞状

年間活動の部　実行委員長賞

高橋伸和　殿

あなたの右作品はのたろんフェア2014写真コンテスト一般・フェア来場者の部において頭書の成績をおさめられました。

よってここに賞品を贈呈し表彰いたします。

2014年2月21日

のたろんフェア2014

実行委員長　前川　吉和

第 120 回自然観察 ＆クリーンのお知らせ

主催：小網代の森と干潟を守る会　共催：NPO 法人小網代野外活動調整会議

◆春・芽吹き 命にぎわう小網代の森と干潟

春の暖かな日差しを受けて、小網代の森の外周を歩きます。
引橋からは新緑の森の全景を眺望するとともに、樹木の樹冠と同じ高さから新芽の芽吹きや樹下からは見ることのできない花を観察することができます。また、道端には野の花が咲き誇り参加者を出迎えてくれます。
小網代の森では、暖かければアカテガニが活動を開始しているかもしれません。干潟は大潮の引き潮の時間に当たるので干潟のカニたちも出迎えてくれることと思います。
賑わい始めた小網代の森と干潟で春のひと時を過ごしてみませんか？
持ち物は長靴、お弁当、飲み物、雨具、小さなお子さまは着替えもあると安心です。そのほか図鑑や虫眼鏡、双眼鏡などの観察用具もあるとより一層楽しめます。

日　　時：2013 年 4 月 29 日（土・昭和の日）
集　　合：10:00 京浜急行三崎口駅改札前（トイレがありませんので必ず駅で済ませてください）
解　　散：14:00 ころ 現地解散
講　　師：矢部和弘氏
参 加 費：無　料
申し込み：当日現地で受け付けします
持 ち 物：本文下部に記載しています
お問合せ：046-889-0067（仲澤）

NPO 法人小網代野外活動調整会議からのお知らせとお願い

小網代の森と干潟を守る会は NPO 法人小網代野外活動調整会議の活動を支援しています。

トラスト緑地保全支援会員＆小網代応援団募集

◆トラスト緑地保全支援会員になるには

トラスト財団のパンフレットにある申込書に記入して郵送します。またはトラスト財団のホームページ（http://ktm.or.jp）から、申し込むことができます。支援したい緑地にはぜひ「小網代の森」をお選びください。
通常のトラスト会費（大人 2000 円、中高生 1000 円、小学生 500 円、家族会員 3000 円）の他に 3000 円の支援会員会費が必要です。 小網代の森をよろしくお願いします。

◆小網代応援団に入るには

NPO 法人小網代野外活動調整会議（電話：045-540-8320　E-mail: koajiro@koajiro.org）までお問い合わせください。
「小網代応援団」に登録していただいた方には、年に数回の特別観察会をご案内いたします。森と干潟の様子をしっかり見守り、楽しみながら、大好きな森を育てていきましょう。

小網代　森と干潟つうしん　　NO.133　　2014 年 3 月 29 日発行
森も海も干潟も　奇跡の集水域生態系を未来の子どもたちへ
小網代の森と干潟を守る会
〒238-0111　神奈川県三浦市初声町下宮田　261-5
代表　高橋　伸和　　E-mail: info@koajiro-higata.com
電話　046-889-0067（副代表　仲澤）
URL: http://www.koajiro-higata.com
年会費: 一般会員¥1000　賛助会員¥5000（7 月～6 月　入会金不要）
郵便振替　口座　00260-4-21569　　加入者名　小網代の森と干潟を守る会
＊ 既に退会のご連絡をいただいた方にも年度末（6 月末）までお届けしております